

2020 年度活動報告 CJP 授業：口頭表現 2－3

佐野 真弓（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本授業は、初級（レベル 2 から 3）の学生を対象とする週 1 コマ開講されている選択科目で、従来は対面での授業だが、2020 年度春学期は新型コロナ感染拡大の影響により同時双方向型のオンライン授業を実施した。目標は、1) 身の回りのことについて、初級レベルの表現を使って口頭で表現することができるようになること、2) 一人で話すだけでなく、他の人とのやりとりの中でも話せるようになることである。

2. 授業内容

本授業では、前半は、「60 秒スピーチ」と「自分のストーリーの語り」、後半は、「90 秒スピーチ」と「わたしが言いたかったこと」という活動を行った。まず、「60 秒スピーチ」では、モノを見せながら、「90 秒スピーチ」では、写真を見せながら、一定のまとまりのあるスピーチを行った。学生は聞き手にとってわかりやすく、興味を引くようなスピーチができるように、発表原稿を書き、推敲をし、スピーチに臨んだ。

「自分のストーリーの語り」では、まず、学生はモデルとなるモノローグの語りを聞き、それを再生する練習を行ったうえで、モデルを参照しつつ自らの語りを構築するという活動を行った。そこでは、自身の経験や個性を反映させた語りを目指した。例えば、モデルが「ゴールデンウィーク」をトピックにしている場合、学生は自身の経験を踏まえ、「サンクスギビングデー」の思い出について語るといったふうである。

「わたしが言いたかったこと」では、学生が日常生活において、日本語表現やマナーで困った経験をもとに、ラーニングアシスタント（LA）によるサポートを得て、個々の場面や状況にふさわしい表現や振る舞いを獲得し、各場面においてミニドラマで役割を演じた。また、最後に集大成として長めのドラマを作成し、練習、実演を行った。

3. 成果と今後の課題

成果は、学生が手持ちの言語的表現を駆使して、自分が言いたいことを LA に伝え、両者の間で共通理解が得られたこと、また、これまで日本語使用場面においてできなかったことが今後同じ状況に遭遇した際には達成できるという自信が得られたことである。学生自身も、本授業での場面や状況を意識した学びが自身の日本語表現を増やし、勉強になったと評価している。オンラインゆえの今後の課題として、発話に伴った身振りや表情などの非言語的側面をどう育成、評価していくかが挙げられる。